

Exploring Liberal Arts in the 21st Century

Japan Association of International Liberal Arts
日本国際教養学会

写真提供

Aflo

iStock

音声ファイルのダウンロード/ストリーミング

CD マーク表示がある箇所は、音声を弊社 HP より無料でダウンロード/ストリーミングすることができます。下記 URL の書籍詳細ページに音声ダウンロードアイコンがございますのでそこから自習用音声としてご活用ください。

<https://www.seibido.co.jp/ad723>



Exploring Liberal Arts in the 21st Century

Copyright ©2025 by Japan Association of International Liberal Arts

*All rights reserved for Japan.
No part of this book may be reproduced in any form
without permission from Seibido Co., Ltd.*

はしがき

グローバル化が加速する現在、国際共通語としての英語の重要性は益々高まりつつあります。英語教育は今、世の中の期待に応えることができるよう、改善を続けることが求められています。では、大学の共通教育で提供される英語はどうあるべきでしょうか。本書は、日本国際教養学会英語教材プロジェクトチーム（以下、プロジェクトチーム）のこの問いに対する回答を具体的に示したものです。

英語をツールとして使用する能力が重視されていますが、大学で求められている英語教育は、いわゆる、「英会話」レベルの内容ではありません。自分の趣味、週末の出来事、長期休暇の予定等について互いに伝え合うような活動の意義を否定するつもりはありません。身近な題材について英語で伝え合うことによって、大学生の「英語でコミュニケーションを取ろうとする意欲」(Willingness to Communicate)を高めることができれば、それは素晴らしいことです。しかし大学は本来学問を学ぶ学術的な場であり、そこで提供される英語も知的好奇心を刺激し教養を高めるものであるべきです。

例えば、2010年に日本学術会議より文部科学省に手交された『大学教育における分野別質保証の在り方について』では、大学学士課程で提供されるべき英語教育は、アカデミック・リーディング、アカデミック・ライティングそしてプレゼンテーションを核とした「英語によるリテラシー教育」となっています。これを英語教材として具現化するためには、まず認知負荷の高い読み応えのある英語のパスセージが必要となります。大学生の知的好奇心を満たす知的な内容でなければなりません。しかも共通教育で使用するためには、特定の学問領域だけでなく、様々な分野を包括的に扱うことが求められます。

本書の各ユニットに掲載されているパスセージの多くは、多様な分野で研究を行っているプロジェクトチームのメンバーがその専門性を活かして書き下ろしたものです。大学における学び、先端工学、哲学、社会学、学際的研究等、その内容は多岐にわたっています。読んで理解して終わりではなく、理解した内容に基づいて各自で深く考えることを意図して書かれたパスセージです。単なる読解教材としてではなく、自分の思考を英語で伝える能力を育成し、さらには専門教育への「橋渡し」をも想定した内容・構成となっています。

なお、本書の英文につきましては、David Chart氏、Mark Taylor氏、Douglas Parkin氏そしてBill Benfield氏に最終確認をしていただきました。また、本書を出版するに当たり、成美堂の中澤ひろ子氏には、その企画から編集まですべてにわたりお世話をいただきました。心よりお礼を申し上げます。

日本国際教養学会英語教材プロジェクトチーム

Preface

As globalization accelerates, English as a world language has become much more important than ever before. More and more people wish to be good speakers of English, and researchers and teachers in Japan have been working hard to make their wishes come true. So what should English education at university be like? JAILA has been working on this problem since its establishment, and this book is one of our attempts to address it.

First of all, English is a tool for global communication, and the value of the language in that sense cannot be denied. Indeed, exercises oriented towards this goal, such as greetings, talking about your hobbies, giving directions, etc., will help improve your willingness to communicate. On the other hand, a university is an academic institution where you enrich your education, and what you learn there should stimulate your intellectual curiosity. To meet this goal, English teaching materials should be substantial and comprehensive.

Most of the reading passages in this book were specially written for this project by team members with remarkable academic accomplishments in their own specialized fields. The topics include university education, advanced engineering, philosophy, sociology, literature, and interdisciplinary studies. In other words, you can learn the essentials of different fields of research and study in English. Working as a bridge between general and technical education, this book will encourage you to read and think deeply about each topic through:

- a variety of high-interest warm-up and comprehension exercises, and
- further studies giving practice in writing, speaking, and thinking in English.

Finally, we wish to thank David Chart, Mark Taylor, Douglas Parkin, and Bill Benfield for their unstinting guidance on idiomatic English usage. We would also like to thank Hiroko Nakazawa at SEIBIDO for her valuable and persistent advice. Without their cooperation and kindness, this book could never have been published.

ELT Project Team at the Japan Association of International Liberal Arts

執筆者一覧 (監修: 那須 雅子・吉田 安曇・岩中 貴裕)

Unit	タイトル	執筆担当者
1	Explore the World Beyond the Syllabus	深谷 素子
2	The University and Civic Engagement: A Brief History	草薙 優加
3	Life Design for Centenarians	佐藤 宏子・寺西 雅之・ 吉田 安曇
4	Can Humans Really Fall in Love with Robots?	原口 治
5	Business in Asia: Global Talents in Japan	那須 雅子
6	What Literary Works Teach Us	久世 恭子
7	Advice from the Philosopher Nietzsche: Have a Strong Will to Live Well	宮上 久仁子
8	Three Tools for Learning at University	岩中 貴裕
9	Laugh and Then Think: The Ig Nobel Prize	北 和丈
10	Ecological Thinking	竹下 浩子・吉田 安曇
11	Healthcare, and Quality of Life in Two Cities	内山 八郎
12	Sports, Culture, and Communication	Mark Sheehan
13	Form and Function in Classical Music	Edward Sarich
14	Looking at Art of Other Cultures	五十嵐 潤美
15	Interdisciplinary Studies: Where Science and Humanities Meet	寺西 雅之・吉田 安曇
p.8	プロセスライティングープロセスを踏んで書こうー	五十嵐 潤美・ ウィックストラム 由有夏

本書の構成

各ユニットの構成は、基本的に以下になっています。

Warm-up

本文を読む際に必要となる背景的知識を活性化するための質問です。英語での表現活動に慣れていない学生のために Useful Expressions/Useful Words and Phrases を載せています。ペア、または小グループで英語を用いて意見交換をすることを想定した構成になっています。

Pre-reading Vocabulary Check

本文中で使用されている重要な語を確認するための活動です。大学1年生にはかなり難しい語も含まれています。英英辞典を積極的に活用しましょう。難易度の高い語を平易な英語で表現する能力の育成を図ることも目的としています。

Reading

日本国際教養学会英語教材プロジェクトチームのメンバーが各自の専門性を活かして作成した passage です。「英語力」の向上と同時に「思考力」の向上をもたらすことを目標とし、各専門領域の橋渡しとなる内容となっています。多様な専門分野のトピックについて英語で読み、大学生としての国際教養を身に付けましょう。

True or False

本文の内容理解を確認するための活動です。本文のどの部分に基づいて判断したのかを考えさせることによって、内容に対する深い理解がもたらされます。False と判断した場合は、その理由を明確にすることによって、分析的思考力の育成を図ることを目的としています。

Comprehension Questions

本文の内容理解をさらに深めるための活動です。本文に基づいて自分の英語で答えることによって、内容に対する深い理解をもたらす、英語による表現力を伸ばすことを目的としています。

Summary

本文の概要を思い出しながら、本文中で使用されていた重要語の定着を図ることを目的としています。各語の最初のアルファベットをヒントとして提示しています。解答の確認は音声を聞いて行います。

Discussion & Writing

本文に対する理解を深めた後で自分の考えを表現するための活動です。英語で Discussion を行い、さらにその内容についてライティングでまとめましょう。まずは「パラグラフの構成と種類」について p.VII で確認し、「パラグラフライティングのプロセス」について p.VIII で学びましょう。尚、「エッセイの構成」については、p.IX にまとめています。

パラグラフの構成と種類を確認しよう

●パラグラフの構成

Topic Sentence	パラグラフの main idea について書く
Supporting Sentence(s)	Topic Sentence に対する理由・裏付け・具体例・補足など
Concluding Sentence	パラグラフのまとめ

●パラグラフの種類

Description	特定のものを描写する。一番重要なものを先に書き、細かいことを後に述べる。
Cause/Effect	ある物事がなぜ、どのようにして起こったのか、その原因と結果について述べる。
Compare/Contrast	2 つ以上の物事の似た部分と違う部分をそれぞれ比較対照して述べていく。
Opinion	ある事柄に対する賛否など、自分の意見を述べる。

プロセス・ライティングープロセスを踏んで書こうー

英文エッセイを書く際には、下記のようなプロセスに沿って仕上げます。

1. ブレインストーム

- トピックを選ぶ

アイデアを集める：トピックについて自由にアイデアや発想されたものを書き出す。ブレインストームの方法には、(1) 箇条書きでワードやフレーズを書き出すリスト、(2) 自由に文章を書いていくフリーライティング、(3) マップでアイデアをつなげて書き出すマインドマッピングなどがある。

- 整理する：情報を整理し、アイデアをまとめる。

2. アウトライン

★アウトラインとは、エッセイに入れる情報のリストをさします。

- エッセイの主題文を最初を書く
- それぞれの段落のエッセイの構成を示す
- 議論するアイデアの内容をエッセイに書く順番通りに記す

エッセイを書き始める前にアウトラインを書くことで、エッセイの構成が整然と明確に整い、重要なポイントが抜け落ちるのを防ぐことができます。

3. 書き始め

- エッセイを、2. で作成したアウトラインに沿って最後まで書く

4. 編集

- 構成と内容をよく見直し改訂する
- 情報を加える箇所、または不必要だと思われる箇所を見つけ修正する
- 他の人に読んでもらい意見を聞く
- 校正：スペルや文法に間違いなどないか確認する
- 最後の修正をする

5. 最終稿

- 内容のほかフォーマットや必要事項なども最後にもう一度確認し、最終稿を完成させる

The Basic Structure of an Essay

英文エッセイは、通常三つの基本部分から構成されます。

Introduction

冒頭で、読者の興味をトピックに引き付け、必要な背景知識を提供します。そして最終センテンスで、自分の意見を明確に主張します。これを **thesis statement** と呼び、エッセイ全体の要となります。

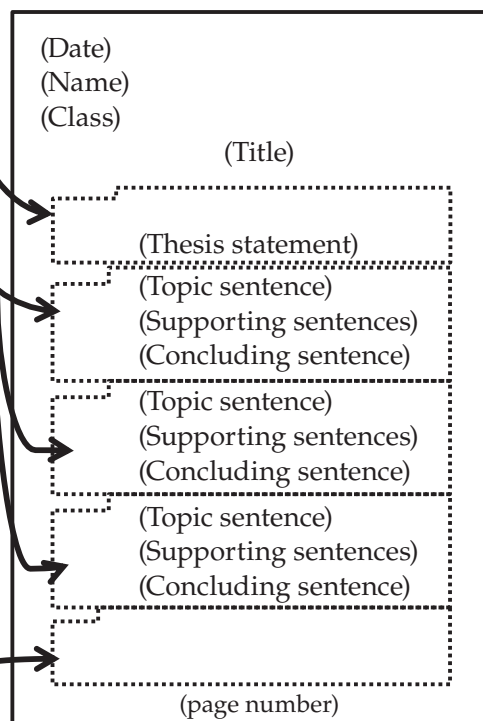
Body

本文は **thesis statement** の主張を詳しく証明・説明して、読者を説得するための部分です。通常いくつかのパラグラフから構成されており、複数の論点から **thesis statement** の主張をサポートします。一つのパラグラフにつき一つの論点を展開しますので、論点が多いとパラグラフの数も多くなります。

一つ一つのパラグラフも三つの部分から構成されています。まず **topic sentence** で論点を主張し、続く **supporting sentences** でその論点を更に証明・説明していきます。最後に **concluding sentence** で論点を再主張します。

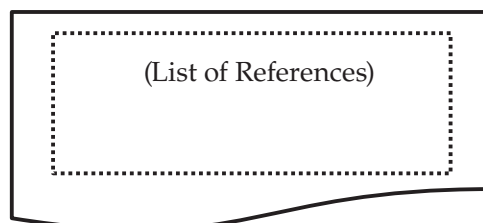
Conclusion

Thesis statement で述べた主張を別の言い方でもう一度述べるか、本文の論点を要約します。



References

もし本文の中で、他の人が書いたものを引用した場合、必ずそのことを明示しなければなりません。引用したものは、本文の中に示すと同時に、巻末にリストを付け加えます。



専門分野による書き方の違い

上記に示したのは基本的な英文アカデミックエッセイの書き方です。専門的なリサーチペーパーを書くときは、分野によって構成や引用のスタイルが異なります。よく使われるのは文学系の MLA、心理学・社会学系の APA、歴史系の Chicago、理系の IMRAD などです。リサーチペーパーの書き方を学ぶときに、先生におたずねください。

CONTENTS

Unit 01 Explore the World Beyond the Syllabus 12

分野: 大学での学びについての総論

概要: 内田樹氏の著書『街場の教育論』, 第3講「キャンパスとメンター」の概要を英訳し, 解説したユニット。講義要項を見て講義をカタログショッピングするような学習観に真っ向から反論する内田氏は, カオスとしてのキャンパスで「すではじまっているゲームに巻き込まれる」体験, そこで「自分には理解できない『高み』にいる」メンターに呼び寄せられ, 自分の限界を乗り越える体験こそが大学での学びであると説く。内田氏の熱い持論について英語で読んで考えてみよう。

Unit 02 The University and Civic Engagement: A Brief History 20

分野: 本書で扱う学術分野に関する説明

概要: 世界の東西を問わず, 大学の学部は人文学, 社会科学, 自然科学, 応用科学のいずれか, あるいは分野横断型の学際研究分野を基盤に設置されている。本ユニットでは, 専攻分野に偏重しがちな視野を拡げるため, まず, 自身の専攻が諸研究分野のどこに位置して何を目指しているのか, 他の分野とどのような関係性があるのかを理解し専攻分野を越えた統合的な教養を得る手がかりを探ってみよう。

Unit 03 Life Design for Centenarians 28

分野: 社会学

概要: 日本は 1970 年に国連の定める「高齢化社会」を迎え, わずか 35 年後の 2005 年には世界で一番の高齢社会となった。明治期・大正期には国民の平均寿命が 40 代前半だった日本が, 21 世紀には世界有数の長寿国となったのである。本ユニットでは, このような高水準かつ急激なスピードで進む日本の高齢化の特徴, 寿命の延長と高齢者の若返り, 活動的な高齢者の増加等について理解を深め, 人生 100 年を想定した人生設計の必要性について学ぼう。

Unit 04 Can Humans Really Fall in Love with Robots? 36

分野: 先端工学

概要: 昨今話題の最年少棋士藤井聡太四段にも影響を与えたと言われている「人工知能 (Artificial Intelligence)」。本章では, 「人間と人工知能ロボットとの恋愛関係が未来では可能となるのか」という刺激的なテーマを提示する。「人間と技術」の関係, 二項対立を超越した視点で捉え, 人間の存在意義を問うコミュニケーションの在り方を, 身近なレベルで考えてみよう。

Unit 05 Business in Asia: Global Talents in Japan 44

分野: 国際ビジネス

概要: グローバル社会の中で, 日本的なモノを輸出しようとする企業が増加している。日本で拡大した野菜スイーツ事業をアジア太平洋地域に展開するビジネスマンのインタビューをもとに, 日本と海外を行き来するグローバル人材に必要な「教養」とは何かについて考えよう。

Unit 06 What Literary Works Teach Us 52

分野: 文学

概要: 文学作品では, しばしば, 出来事や登場人物等に関する解釈がいくつか存在する。本ユニットでは, 戯曲 *Pygmalion* に注目し, ロンドン初演の 2 年後に作者が ending を書き換えて, さらに sequel を追加したという事実から, 文学は読み手や演じ手によって様々に解釈される可能性を持つことを学ぼう。同時に, 文学作品は, 外国語学習においても言語, 文化, 人間形成等の点から重要な意味を持つことを理解しよう。

Unit 07 Advice from the Philosopher Nietzsche: Have a Strong Will to Live Well 60

分野: 哲学

概要: ニーチェの「悲劇の誕生」をもとに, 現代社会が抱える「生きにくさ」を考える。ニーチェによると, 古代ギリシア悲劇は, ふとしたことから苦しい人生を歩むことになろうとも, それも自然な人間の定めとの理解を促し, 人々を慰めていた。それが精神的支えとなり, 人は自分を受け入れ, 過酷な運命を乗り越えようとの勇気を得ていたという。ニーチェが自分を生きようとする人々に与えている忠告を現在の文脈で考えてみよう。

Unit 08 Three Tools for Learning at University68

分野：社会人基礎力

概要：所属する学部に関係なく学士課程のすべての学生が習得することが求められている資質が「社会人基礎力」である。これは「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チーム働く力」という3つの能力で構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」とされている。どのような姿勢で日々の大学生活を送るべきかについて理解を深めよう。

Unit 09 Laugh and Then Think: The Ig Nobel Prize76

分野：科学

概要：かのノーベル賞のパロディとも言われ、近年では日本からの受賞者の多さでも注目を集めている「イグ・ノーベル賞」。創設以来の数十年でその栄誉(?)に浴してきた突飛で滑稽な研究の数々には失笑を禁じ得ないが、その詳細を知れば知るほど、笑って済ませるには勿体ない知の輝きが見えてくる。この賞の存在意義を考えることによって、科学の本質にナナメ上から切り込もう。

Unit 10 Ecological Thinking84

分野：環境

概要：エコバッグ、エコカー、エコブーム等に代表されるように、「エコ」という言葉は、環境にやさしいという意味を連想させる。そもそも、「エコ」のもとになっているエコロジー (ecology) は、生態系という意味があり、環境へのやさしさを考える場合には他の生物との共存が必要である。そこで、本当の意味で「エコ」な生き方とは何かについて、過去に起きた生態系の事例から考えよう。

Unit 11 Healthcare and Quality of Life in Two Cities92

分野：国際保健学

概要：現代人、特に日本人の平均寿命を始めとする健康指標は、非常に高い健康水準を示しているが、世界、特にアフリカのサブサハラ地域に目を向けると、歴然として存在する健康格差が浮き彫りになる。この章では世界保健機関による、日本の熊本市で生活する一人の女性とシエラ・レオネ共和国のフリータウンに生きる一人の女性の物語を基に、経済や医療保健システムが個人の人生や生活の質にどのように影響を与え得るのかを考えよう。

Unit 12 Sports, Culture, and Communication100

分野：スポーツ

概要：本ユニットでは国際交流と文化交流を促進するためのスポーツの役割に注目する。各国で行われている国際的なスポーツイベントにおいて、アスリートは様々な人々に出会い、様々な文化交流を行う。スポーツは文化交流を促進するために非常に有効なメソッドと言える。なぜならアスリートは、国境を越えてスポーツマンシップに基づき、スポーツという共通の題材について対話することができるからである。国際言語であると同時に、多文化理解を育み、世界平和に貢献する役割を持つスポーツの意義について考えよう。

Unit 13 Form and Function in Classical Music108

分野：音楽史

概要：本ユニットでは、1600年から1750年のバロック時代の発展に影響を与えた歴史的要因に焦点を当てる。30年戦争が終わった1648年には、フランスはヨーロッパにおいて支配的な権力を持つようになった。ルイ14世は、彼の72年の生涯を通して、芸術に関して寛大な後援者であり続けた。指揮者・室内楽・オペラ・フーガ等の複雑な音楽作品の発展を含め、今日も使用されているさまざまな音楽の構造や形式の革新を掌握したバロック時代について学ぼう。

Unit 14 Looking at Art of Other Cultures116

分野：美術史

概要：芸術は国境を超えと言われるが、それは必ずしも正しくない。他文化の芸術を見る我々の眼は無垢で中立的のものではなく、必ず自らの属する文化、時の政治状況や信条によって影響を受けざるを得ない。他者に対するその眼差しは時に文化間の衝突を招く。顕著な例として、植民地時代の南アジア美術と西洋がそれらをどのように評価したかについて学び、観察者の主観とその感性の危うさについて考えよう。

Unit 15 Interdisciplinary Studies: Where Science and Humanities Meet124

分野：学際分野

概要：本ユニットでは、大学の学びの中で近年ますます重要度を増している「学際性 (interdisciplinary)」と「国際性 (international)」・「グローバル性 (global)」に焦点を当てる。例えば、環境問題研究 (environmental studies) は、環境を大切にすることや美意識を育む芸術・人間分野 (art・humanities) と問題解決の手段を学ぶ科学 (science) が融合する学際分野であり、また近年注目を集めるナラティブ・メディスン (Narrative Medicine) も、文学と医療からなる「文理融合」分野である。専門の垣根を越えて他分野を学ぶ意義について考えよう。

UNIT 01

Explore the World Beyond the Syllabus*

(* P.14 の註参照)



新しい扉を開けた向こうに、今まで見たことのない世界が広がる。それが大学生活の第一歩。

Warm-Up

Exchange opinions in pairs or small groups in English. You can use the expressions, words, and phrases below.

1. Do you read the syllabus when you choose courses to take? What kind of information does the syllabus give you?

Ans.

.....

.....

2. What is your major? What would you like to learn at university?

Ans.

.....

.....

.....

Useful Expressions

My major is...
 I would like to learn about...because...
 I am interested in...because...
 I haven't decided yet, but...

Useful Words and Phrases

anthropology	education	medicine
art	engineering	philosophy
biology	law	psychology
business administration	linguistics	physics
chemistry	literature	politics
economics	mathematics	sociology

Pre-Reading Vocabulary Check

Match the word to its meaning.

- | | | | |
|-------------|---------------|---------------|---------------|
| 1. admonish | 2. anticipate | 3. curiosity | 4. discipline |
| 5. diploma | 6. encounter | 7. hesitation | 8. resolve |
| 9. wander | 10. wonder | | |

- to meet or come across someone or something
- the controlled behavior through training
- something you receive when you graduate
- to advise, caution, and encourage someone to do better
- to let your thoughts go free without conclusion
- a sense of wanting to know more about something
- a firm decision on a course of action
- to walk around with no particular aim in mind
- the act of pausing before saying or doing something
- to feel excitement about something happening soon

1		2		3		4		5	
6		7		8		9		10	

What would you like to learn while at university? Politics? Law? Medicine? Art? Some students major in education to be teachers, and others major in business administration to become business leaders. If you like
5 reading books, you may be interested in taking a literature course. If you love science, you will take science courses without hesitation.

On your very first day on campus, you are told to access the university's website and look at the online
10 course catalog where you will find a long and complicated list of courses and their syllabi.* In other words, it is a collection of all the classes offered at your university. The content of each is explained in the syllabus.* At first glance the course catalog* may look like
15 a shopping catalog, but it's much more than that.

Tatsuru Uchida, Professor Emeritus of Kobe College, reminds us not to think of the course catalog as a place to shop around for classes. There is a big difference between the course catalog and the shopping catalog.
20 The shopping catalog or website gives you access to products you wish to buy. The course catalog, on the other hand, lets you begin thinking about what you want to learn. Moreover, Professor Uchida advises us that much of what you can learn at university cannot be found
25 in the syllabus. In fact, exploring on your own outside of the syllabus is what a university education is all about.* So how do you go about* that?

You begin by exploring the campus and noticing what sparks your interest. At first, you feel totally lost. Not
30 to worry. This is when the learning process kicks in.* All you need to do is to follow your curiosity. Wandering around with your curiosity at the highest level, you will surely encounter something that attracts your attention, for no particular reason.* It might be people dancing on



『街場の教育論』著者の内田樹先生（凱風館館長、神戸女学院大学文学部名誉教授、武道家）

syllabi

syllabus の複数形

syllabus

講義概要、授業計画表。

course catalog

講義要項。大学や学部全体の各講義の syllabus を集めたもの。

what ~ is all about

~の本質、~の肝腎なところ

go about

~にとりかかる。

kick in

（口語表現で）始動する。

for no particular reason

特にこれという理由もなく、なんとなく。

35 an empty stage, or a group of your seniors having a discussion in the cafeteria. As you wander past a laboratory, you notice students and a professor conducting an experiment. You wonder what these people are doing and why it attracts your attention. At
 40 such a moment, you take a first step toward “learning.” Your curiosity brings you in contact with the unknown.* Now, take the next step. Ask those dancing students if they don’t mind you joining in. Call on your courage and ask the team in the lab what kind of experiment they’re up
 45 to. Be open to the moment, meet people, and engage with new ideas. This is the way to learning.

An important next step is to look for a mentor.* You need the guidance of a person with knowledge and experience in order to learn something new. A teacher,
 50 friend, or even favorite author or artist can become your mentor. Mentors encourage, admonish, and guide you through their lectures, talks, books, or music. Professor Uchida points out that a mentor helps you make a “breakthrough.*”

55 Two good examples are Obi Wan Kenobi and Yoda in *Star Wars*. In *Episode IV: A New Hope*, Luke Skywalker meets Obi Wan, his first mentor, and learns how to handle a light-saber* and become one with “the Force.” At first, Luke doubts the effectiveness of these
 60 tools. He hasn’t experienced their full power yet. Under the guidance of his mentor, though, he begins training as a Jedi and eventually is able to achieve a breakthrough. In *Episode V: The Empire Strikes Back*, Luke meets another mentor, Yoda. Yoda helps Luke realize how much he has
 65 yet to learn.* And so with new resolve and self-discipline Luke becomes a mighty Jedi fighter. Finally, in *Episode VI: Return of the Jedi*, after long and disciplined training with Yoda, Luke makes another breakthrough in which he matures not only as a fighter but also as a person. To sum
 70 up, you will achieve higher aims with a mentor’s guidance.

the unknown

知られていない人、未知の人。「the + 形容詞」で「～な人」の意味になる。
 (例) the young = young people 若者たち。

mentor

未熟な者を教える導く熟達者、先達、師匠。

breakthrough

ブレイクスルー。限界を打ち破り新たな境地に至ること。

light-saber

ライトセイバー、光線剣。映画『スター・ウォーズ』シリーズで、ジェダイの騎士たちが操る武器。

how much he has yet to learn

have yet to do で「まだ～していない」の意味。直訳すると「どれほど彼がまだ学んでいないのか」、つまり「これから彼が学ばなければならないことがまだどれほどあるか」

So, yes, by all means, enjoy selecting classes and planning your schedule. At the same time, keep in mind that learning at university is not about taking classes for
 75 four years in order to get a diploma or some kind of certificate that assures you a steady income or social status. Real learning at university begins when you follow your curiosity. Take time to explore the campus. Notice what sparks your interest. Start up a conversation; you
 80 never know when and where you will meet your next mentor. Anticipate the breakthrough moment that comes when you combine self-discipline with the guidance of your mentor. Sure, the syllabus lets you know course content, but it cannot be a road map to your unique
 85 learning journey. Lift your eyes from the syllabus, go and explore the world around you! (789 words)

付記：本文は、内田樹著『街場の教育論』第3講「キャンパスとメンター」（ミシマ社、2008）の概要を英訳し、解説・解釈を加えたものである。

注記：本文中で言及されている映画『スター・ウォーズ』のエピソードIV, V, VIは、『スター・ウォーズ』全9作の中で、監督ジョージ・ルーカスが最初に製作した3部作（original trilogy）で、1977年から83年にかけて公開され世界的大ヒットとなった。主人公ルーク・スカイウォーカーがジェダイの戦士として成長し、帝国軍の支配から宇宙を守る姿が描かれるのだが、その成長は2人の偉大な師（オビ・ワン・ケノビとその師ヨーダ）の存在なしにはあり得なかった。『スター・ウォーズ』は冒険活劇としての側面が強調されがちだが、若者の成長物語としても優れた作品となっている。

True or False

Decide if each statement below is T (true) or F (false).

1. You should think of the syllabus as a road map that contains everything you will learn at university. T / F
2. An important first step in learning at university is to walk around the campus and notice what attracts your attention. T / F
3. If you see something interesting happening on campus, you should observe carefully from a distance. T / F
4. A mentor is a person whose main responsibility is to correct your mistakes. T / F
5. A breakthrough experience comes to those who, like Luke Skywalker, are lucky. T / F

Comprehension Questions

Answer the questions below.

1. How are the course catalog and shopping catalog different?
2. According to the passage, what do you need to do when you feel lost on the university campus?
3. How does Luke mature as a person as well as a fighter?

Summary



1-09

Fill in the gaps to complete the summary, then listen to the audio.

Although you're told to access the university's website which has a list of courses and their (1. s _____) on the first day, you mustn't think that it contains everything there is to learn at university. Education at university begins with your (2. c _____). So, the first thing you should do is (3. e _____) the campus and see what (4. s _____) your interest. If you take the time to look around, you'll surely find people doing interesting things. Call on your (5. c _____) and ask what's going on. Secondly, look for a (6. m _____). With a mentor's (7. g _____) you become aware of your lack of (8. k _____) and (9. e _____). Recall Luke Skywalker, who realized that he had a lot more to learn. Only then could he make a (10. b _____).

Discussion and Writing

Do you agree with the idea that university education is about exploring something to learn outside the syllabus? Yes or no? Why? Please share your ideas with your classmates and write a paragraph on this theme.

(a) Your ideas

Agree / Disagree

Reason(s):

(b) Write a paragraph

[Topic

]

Topic Sentence

Supporting Sentences

Concluding Sentence